

合唱コンクールに咲く紫陽花

元本校教諭  
二宮正美



《審査員審査》	第1位	37組	山の輝き
	第2位	34組	海の匂い
	第3位	28組	凧
《生徒審査》	3年第1位	37組	山の輝き
	2年第1位	25組	吹雪
	1年第1位	15組	むぎや

1998年度入賞

毎年紫陽花の咲く季節になると、合唱コンクールのことを思い出します。B棟の前の紫陽花の側で、ピアノを持ってパート練習や発声練習をしている風景が浮かんで来ます。私が鎌倉高校に赴任した(1968年)頃は、合唱部主催の行事で10年以上前から続いていました。水曜日の午後、HRの時間から夕方まで体育館(第2)で行いました。3年単は文系、理系のコース別クラス編成で、理系のクラスは男子が多く、女子は少ししかいないので合唱には最悪の状態、それに反して文系は最良の状態でした。2~3年後には、クラス編成が改正され、クラス対抗の行事はやり易くなりました。やがて主催も生徒会となり、合唱コンクールは、朝から2日かけて出来るようになりました。元来お祭りの大好きな鎌高生は、どの行事もそうですが、特に合唱コンクールは、朝早くから夕方遅くまで練習をして競い合い、だんだんと技術的にも高度なものになり、審査もむずかしくなってきました。会場も、藤沢市民会館、県民ホール、川崎産業文化会館(教育文化会館)、鎌倉芸術館と、よいホールで行うようになりました。B棟の前から生徒玄関前にわたって植えられた紫陽花は退職された理科の先生に寄贈していただきましたが、みごとに咲いたその花の前で、生徒に混じって一緒に練習している担任もかなりいました。また、合唱の仕上がりの具合を紫陽花に例えて、「だいぶ色が変わってよくなってきた」と批評する先生も何人かいました。生徒会長の選挙が遅れ、合唱コンクールの練習があまりできないことも数年続きましたが、さすが鎌高、1回も中止することなく、毎年行われています。ステージに美しい紫陽花がぱっと開き、若いエネルギーが迫ってくる。様々な色を合わせ、1つのハーモニーにまとめあげる。ああ、合唱コンクールはいいなあ。



写真は70周年記念事業のものと異なります。